

2022年度（令和4年度）
第3回 福山市地球温暖化対策協議会 意見概要

1. 日時等

日時：2023年（令和5年）1月26日（木）
14:00～16:00
場所：福山市役所 議会棟3階 第5委員会室

2. 出席委員

仲嶋一 会長，澤田結基 副会長，市川琢己 委員，今村徹 委員，岩戸志多 委員，大平安義 委員，
神原昌弘 委員，三藤淳一 委員，渡邊哲也 委員

3. 欠席委員

岡崎修一 委員，佐々木昭彦 委員，住田典子 委員，山田康文 委員

4. 議事

- (1) 第二次福山市環境基本計画の改定について
 - ・温室効果ガス排出量の削減目標について
 - ・再生可能エネルギーの導入目標について
 - ・第二次福山市環境基本計画（基本目標1）（素案）
- (2) その他

5. 要旨

- 会議は公開で行われた。
- 事務局から，温室効果ガス排出量の削減目標について説明を行い，質疑応答を行った。
- 事務局から，再生可能エネルギーの導入目標について説明を行い，質疑応答を行った。
- 事務局から，第二次福山市環境基本計画（基本目標1）（素案）について説明を行い，質疑応答を行った。

（意見の概要）

温室効果ガス排出量の削減目標

○脱炭素先行地域の募集要領において，自治体の削減目標に関する項目に変更が入った。脱炭素先行地域に応募する場合は，2030年度（令和12年度）に2013年度（平成25年度）と比較し，46%削減に留まらない野心的な水準を示すことが必要である。民生部門についても，家庭部門が66%，業務その他部門が51%削減を上回るとともに，その他の部門・分野についても最大限の水準とすることが必須事項となっている。

再生可能エネルギーの導入目標について

- 再生可能エネルギーの導入目標は、資料1の5ページ目「温室効果ガス排出量の削減目標に対する削減見込み」の中で、どの取組に該当するか。
- ⇒再エネ導入目標は、「②再生可能エネルギー導入の拡大に伴う温室効果ガス排出量の削減」に加えて、「③特定排出事業所などによる温室効果ガス排出量の削減」にも効果として含まれる。

- 再生可能エネルギー導入実績等は、FIT認定を受けた設備でデータを取っているが、PPA等の自家消費タイプが普及し始めており、データの収集方法が課題となっている。国が一括してデータ管理していただくと管理しやすいが、何か良い案はないか。
- ⇒福山市も同様の課題を持っている。補助実績を活用することや航空写真等を活用する方法も考えられる。

- 資源エネルギー庁が、総合エネルギー統計を取りまとめている。自家消費型の太陽光が増えていくことを見越し、統計に組み込む検討がされていたと認識している。

第二次福山市環境基本計画（基本目標1）（素案）

- 福山市のグリーンスローモビリティはどのような状況か。
- ⇒2021年（令和3年）11月から2022年（令和4年）1月末の間、商店街等で運行し、影響や需要等について実証実験を行っている。伏見町周辺エリアで無料運行の増便や、協力店舗でのデジタルクーポンの発行等に取り組んでいる。高齢者などの外出機会の増加が効果として挙げられる。

- 「カーボンニュートラルポートの形成」の取組について、どのような将来像を描いているのか。
- ⇒国土交通省が主体となり、福山港の管理者である広島県と一緒に準備会が立ち上がっている。水素や燃料アンモニア等の次世代エネルギーの活用など、港湾地域の脱炭素化をどう進めていくかは、長期的な計画になると思う。事業者や国、県、市がどのようなことができるのかを一緒に考えていく必要がある。

- 自然、里山、里海の緑の保全やプラスチックごみの削減が、カーボンニュートラルの取組の一面を含むので、環境基本計画全体が関連し合いながら、カーボンニュートラルを推進していくような計画になれば良いと思う。
- ⇒「基本計画1」のみが脱炭素化の取組ではない。計画全体で、温室効果ガスの削減や3Rの取組、環境の保全等につながると考えている。

- 自然を破壊してメガソーラーを作ることが問題になることがある。太陽光パネルの導入については、立地や設置場所において、環境に配慮して導入していくことを明示してほしい。
- ⇒環境への配慮について、計画内に記載する。

以上